

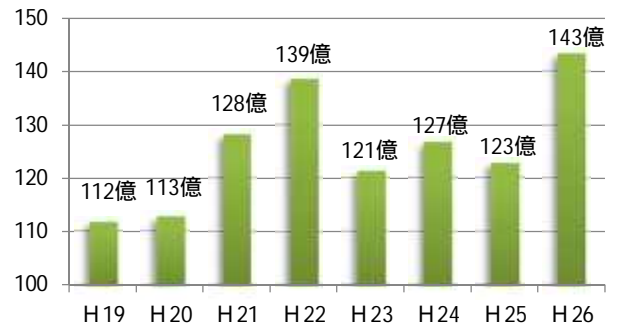
# 平成26年度 当初予算

一般会計予算規模  
143億4,000万円

平成26年度一般会計当初予算の総額は、歳入歳出それぞれ143億4,000万円で、前年度と比較して20億7,000万円、16.9%の増となりました。

これは、芦原小学校体育館屋根改修事業や給食センター整備事業などが終了した一方で、幼保一体化に向けた保育所の改修や認定こども園への補助、養護老人ホームの改築、昨年から行っている新幹線金沢駅開業に向けた街並み整備事業が本格化することなどによるもので、当初予算の規模としては合併後最大となりました。

年度ごとの当初予算額(一般会計)



各表の数値及び構成比は、原則として表示単位未満を四捨五入しているため、合計と一致しない場合があります。

## 各会計の当初予算規模

区分	平成26年度	平成25年度	対前年比	
	当初予算額 A	当初予算額 B	増減額 C = A - B	増減率 (C)/(B) × 100
<b>一般会計</b> <small>(市の基本的な行政サービスの経費を収支する)</small>	143億 4,000万円	122億 7,000万円	20億 7,000万円	16.9%
<b>特別会計</b> <small>(保険料など特定の収入で特定の支出に充てる会計。収入の使い道が決まっているため一般会計とは分けています。)</small>				
国民健康保険特別会計	30億 8,350万円	31億 8,530万円	1億 180万円	3.2%
後期高齢者医療特別会計	2億 9,220万円	2億 8,900万円	320万円	1.1%
産業団地整備事業特別会計	387万円	558万円	171万円	30.7%
農業者労働災害共済特別会計	509万円	507万円	2万円	0.4%
小計	33億 8,466万円	34億 8,495万円	1億 29万円	2.9%
<b>企業会計</b> <small>(一般の会社と同じように、独立の収入でその経費をまかなう「独立採算」を原則とする会計)</small>				
水道事業会計	15億 6,617万円	10億 9,432万円	4億 7,185万円	43.1%
工業用水道事業会計	1,155万円	1,059万円	96万円	9.1%
公共下水道事業会計	24億 6,785万円	22億 7,907万円	1億 8,878万円	8.3%
農業集落排水事業会計	1億 854万円	7,884万円	2,970万円	37.7%
小計	41億 5,411万円	34億 6,282万円	6億 9,129万円	20.0%
芦原温泉上水道財産区水道事業会計 <small>(旧芦原町内の特定区域(財産区)の水道事業にかかる会計)</small>	2億 594万円	1億 8,062万円	2,532万円	14.0%
<b>合計</b>	<b>220億 8,471万円</b>	<b>193億 9,839万円</b>	<b>26億 8,632万円</b>	<b>13.8%</b>

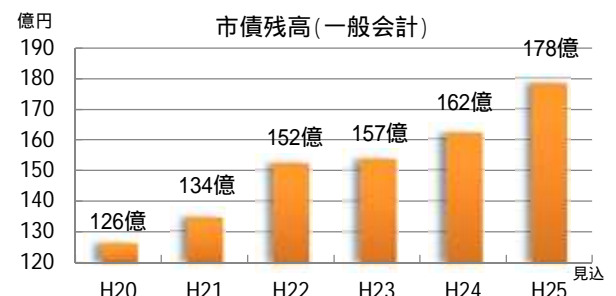
## 財政調整基金(市の貯金)

市の貯金である財政調整基金については、合併当初(平成15年度末)は5億4,507万円でしたが、今年度から合併による優遇措置が縮小されることを踏まえて、これまで積極的な積立を行ってきました。平成25年度末には、合併当初の約5.1倍の28億円となる見込みです。

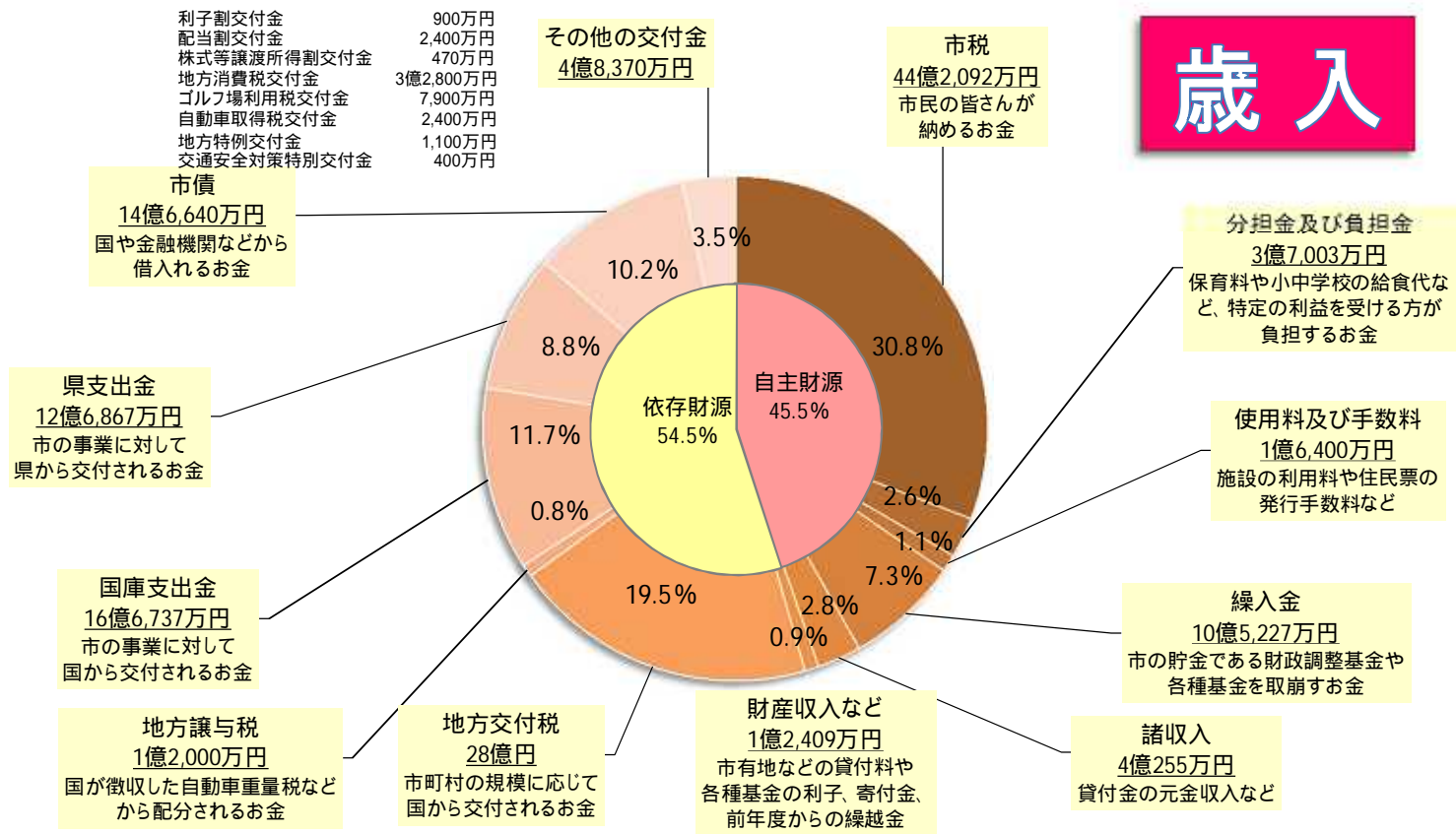


## 市債残高(市の借金)

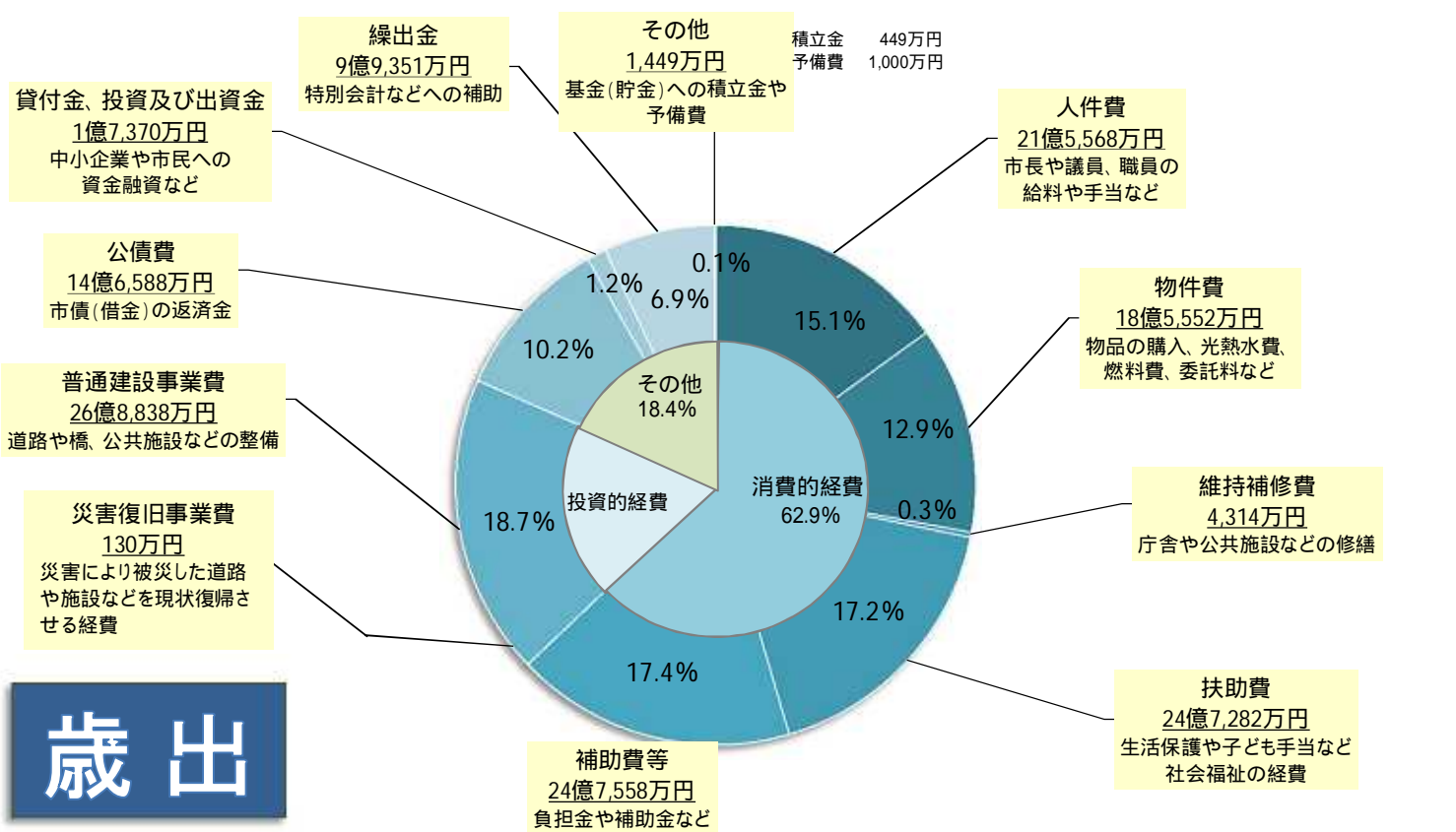
市の借金である市債については、平成25年度で急激に増えています。これは、IKOSSAや給食センターなどの大規模な建設事業が重なったことが主な要因です。償還額の一部もしくは全部が地方交付税に算入される借入(合併特例債など)を積極的に活用しています。



# 歳入



# 一般会計予算規模 143億4,000万円



# 歳出

# 歳出を目的別で分類した予算額と市民一人当たりの予算額

目的名称	説明	主な事業	予算額	市民一人当たり
民生費	児童、高齢者、心身障害者などの社会福祉施設の管理運営や生活保護などにかかる経費です。	保育所・幼稚園運営事業 雲雀ヶ丘寮経費 障害者自立支援給付事業 児童手当支給事業 介護保険事業	55億 3,137万円	186,858円
教育費	学校や体育施設の建設・管理、生涯学習、文化財保護などにかかる経費です。	公民館施設管理経費 給食センター事業経費 創作の森事業 放課後子どもプラン推進事業 通学援助経費	15億 9,214万円	53,785円
土木費	道路・河川・住宅・公園などの各種公共施設の整備や、これらの施設の維持管理にかかる経費です。	公営住宅長寿命化事業 道路一般改良舗装事業 地方道路交付金事業(千束・赤尾線) 芦原温泉駅周辺整備事業 除雪対策経費	14億 9,998万円	50,672円
公債費	道路や施設を整備する際に、国や金融機関から借り入れた市債(借金)の返済金です。	借入償還元金 借入償還利子	14億 6,588万円	49,520円
総務費	庁舎などの管理、公共交通対策、市税の賦課徴収、戸籍住民基本台帳、防犯対策、選挙など市役所の全般的な仕事にかかる経費です。	電算業務・機器管理経費 公共交通対策経費 区長会経費 庁舎管理経費 デマンド交通運行事業	13億 6,719万円	46,186円
商工費	商工業の振興、観光推進、企業誘致などにかかる経費です。	温泉情緒あふれる華やぎのまちづくり事業 商工振興経費 観光推進事業 ふるさと創造プロジェクト事業 セントピアあわら管理経費	8億 794万円	27,293円
衛生費	環境対策、ごみ処理、妊婦・乳児健診、予防接種などにかかる経費です。	塵芥処理広域行政経費 ごみ処理事業 予防接種事業 保健事業 妊婦・乳児健康診査事業	7億 2,603万円	24,526円
消防費	地震、火災、風水害の災害対策や消防施設にかかる経費です。	嶺北消防組合負担金 消防施設整備経費 防災経費 防災訓練事業 水防訓練事業	5億 6,395万円	19,051円
農林水産業費	農林水産業の振興や農道・排水施設の整備などにかかる経費です。	農地・水保全管理支払交付金事業 鳥獣害防止総合対策事業 環境保全型農業支援事業 土地改良等整備事業 企業的園芸確立支援事業	5億 128万円	16,934円
議会費	議員の報酬や議会の運営などにかかる経費です。	議員人件費 議会運営議員調査活動事業 議会事務局経費	1億 8,412万円	6,220円
労働費	雇用対策や市民への生活資金の融資などにかかる経費です。	市シルバー人材センター運営補助金 勤労青少年ホム管理経費 市民生活安定資金預託金 勤労者住宅資金利子補給金	8,432万円	2,848円
その他 ・災害復旧費 ・諸支出金 ・予備費	災害により被災した道路や施設などの復旧にかかる経費、各種基金(貯金)の積立金や緊急に支出を要する場合に備える予備費です。	道路橋りょう災害復旧事業 河川災害復旧事業 農地災害復旧(単独)事業 農業用施設災害復旧(単独)事業 林業施設災害復旧(単独)事業	1,580万円	534円
合計			143億4,000万円	484,427円

平成26年3月1日現在の住民基本台帳人口(29,602人)で計算しています。

# 当初予算を家計簿に例えると

平成25年度の当初予算143億4,000万円をわかりやすく3,000分の1に置き換えて家計簿にしました。

1年間の収入		
基本給与 (市税)	147万 3,638円	<b>自分で稼いだお金 (自主財源)</b> 217万7,952円 (全体の45.6%)
諸手当 (分担金及び負担金)	12万 3,342円	
副業収入 (使用料及び手数料)	5万 4,665円	
預金の取り崩し (繰入金)	35万 757円	
臨時収入など (寄付金、財産収入、諸収入、繰越金)	17万 5,550円	
親などからの仕送りや援助 (交付税・国県補助金等)	211万 3,247円	<b>他から調達してきたお金 (依存財源)</b> 260万2,048円 (全体の54.4%)
銀行からの借入れ (市債)	48万 8,801円	
合計	478万円	

1年間の支出		
食費 (人件費)	71万 8,559円	<b>消費的経費</b> (支出の効果が単年度または短期間で終わり 後年度に形を残さない経費) 338万9,981円 (全体の70.9%)
医療費 (扶助費)	82万 4,275円	
光熱水費・消耗品費など (物件費)	61万 8,506円	
子どもへの仕送りなど (補助費等・貸付金・出資金・繰出金)	121万 4,261円	
家・車などの修繕費 (維持補修費)	1万 4,380円	
家などの増改築 (普通建設事業費)	89万 6,127円	<b>投資的経費</b> (施設や道路などの建設のように形が将来 に残るものにかかる経費) 89万6,127円 (全体の18.8%)
借金返済 (公債費)	48万 8,627円	<b>その他の経費</b> 49万3,892円 (全体の10.3%)
貯金 (積立金)	1,498円	
その他緊急用 (予備費・災害復旧費)	3,767円	
合計	478万円	

年間の収入をみると、親からの仕送りに頼っていることがわかります。また、銀行からの借入れも毎年行っています。今後は、親からの仕送りや借入れの依存を少なくし、基本給与や諸手当、副業収入の増に努めるとともに、なるべく支出を抑えていくことが必要と考えます。

年間の支出では、食費や医療費、借金返済など、支出が義務づけられている経費が約半分を占めています。これまでも、食費や光熱水費・消耗品費などを切り詰めて家計をやりくりしてきましたが、今後もより一層の努力が必要です。